



Java Desktop System Release 2 イ ンストールガイド

Sun Microsystems, Inc.
4150 Network Circle
Santa Clara, CA 95054
U.S.A.

Part No: 817-7756-10
2004 年 9 月

Copyright 2004 Sun Microsystems, Inc. 4150 Network Circle, Santa Clara, CA 95054 U.S.A. All rights reserved.

本製品およびそれに関連する文書は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社による事前の許可なく、本製品および関連する文書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。フォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

Federal Acquisitions: Commercial Software-Government Users Subject to Standard License Terms and Conditions.

本製品に含まれる HG-MinchoL、HG-MinchoL-Sun、HG-PMinchoL-Sun、HG-GothicB、HG-GothicB-Sun、および HG-PGothicB-Sun は、株式会社リコーがリコービイマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。HeiseiMin-W3H は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun、Sun Microsystems、docs.sun.com、Sun のロゴ、AnswerBook、AnswerBook2 は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) の商標もしくは登録商標です。

サンのロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャに基づくものです。Macromedia, Inc. の Macromedia Flash Player テクノロジーを含みます。Copyright© 1995-2002 Macromedia, Inc. All rights reserved. Macromedia, Flash, Macromedia Flash は、米国およびその他の国における Macromedia, Inc. の商標もしくは登録商標です。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

Wnn は、京都大学、株式会社アステック、オムロン株式会社で共同開発されたソフトウェアです。

Wnn6 は、オムロン株式会社、オムロンソフトウェア株式会社で共同開発されたソフトウェアです。© Copyright OMRON Co., Ltd. 1995-2000. All Rights Reserved. © Copyright OMRON SOFTWARE Co., Ltd. 1995-2002 All Rights Reserved.

「ATOK」は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。

「ATOK Server/ATOK12」は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、「ATOK Server/ATOK12」にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本製品に含まれる郵便番号辞書 (7 桁/5 桁) は郵政事業庁が公開したデータを元に制作された物です (一部データの加工を行なっています)。

本製品に含まれるフェイスマーク辞書は、株式会社ビレッジセンターの許諾のもと、同社が発行する『インターネット・パソコン通信フェイスマークガイド '98』に添付のものを使用しています。© 1997 ビレッジセンター

Unicode は、Unicode, Inc. の商標です。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

DtComboBox ウィジェットと DtSpinBox ウィジェットのプログラムおよびドキュメントは、Interleaf, Inc. から提供されたものです。(© 1993 Interleaf, Inc.)

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典: *Java Desktop System Release 2 Installation Guid*

Part No: 817-7658-10

Revision A



041001@9495



目次

はじめに	5
パート I Linux システム	11
1 Linux 版 Java Desktop System をインストールする前に	13
システム要件	13
デュアルブート	14
2 Linux 版 Java Desktop System のインストール	15
CD からの Java Desktop System のインストール	15
CD から既存のシステムをアップデートする	20
ネットワークからのインストール	20
ISO イメージからのネットワークインストールリポジトリの設定	20
ISO イメージからのネットワークインストール	21
ネットワークインストールの手順	22
パーティション分割のガイドライン	23
パーティションのサイズ変更	23
カスタムパーティションテーブルの作成	24
パート II Solaris システム	27
3 Solaris システムでの Java Desktop System のインストール	29
システム要件	29
DVD からの Java Desktop System のインストール	30

ネットワークからの Java Desktop System インストーラのダウンロード	31
インストーラを圧縮解除し抽出するには	32
Java Desktop System をインストールするには	32

パート III インストール後 35

4 Java Desktop System をインストールした後	37
システム更新の確認とインストール	37
Xorg Xserver の設定	37
Solaris システムでの Xorg Xserver の設定	38
Linux システムでの Xorg Xserver の設定	38

はじめに

『Java Desktop System Release 2 インストールガイド』では、以下のリリースの Sun™ Java™ Desktop System についてのインストール情報を提供します。

- Linux 版 Java Desktop System Release 2
- x86 プラットフォーム用 Solaris 9 オペレーティングシステム 9/04 用 Java Desktop System Release 2

対象読者

このマニュアルは、以下のプラットフォーム上に Java Desktop System Release 2 をインストールする必要があるユーザーを対象にしています。

- Linux システム
- x86 プラットフォーム用 Solaris 9 オペレーティングシステム 9/04

内容の紹介

このマニュアルの構成は次のとおりです。

- [パート I 「Linux システム」](#)
Linux 版 Java Desktop System Release 2 をインストールする方法を説明します。
- [パート II 「Solaris システム」](#)
x86 プラットフォーム用 Solaris 9 オペレーティングシステム 9/04 用の Java Desktop System Release 2 をインストールする方法について説明します。

- パート III 「インストール後」

Linux 版および Solaris オペレーティングシステム用 Java Desktop System Release 2 をインストールした後で実行する、インストール後アクティビティについて説明します。

関連マニュアル

次に、このマニュアルに関連するマニュアルを示します。

- 『GNOME 2.2 ユーザーズガイド (Linux 版)』
- 『Java Desktop System Release 2 Accessibility Guide』
- 『Java Desktop System Release 2 システム管理』
- 『Java Desktop System Release 2 クイックスタート・ユーザーズガイド』
- 『Java Desktop System Release 2 ご使用にあたって』
- 『Java Desktop System Release 2 問題の解決方法』
- 『Java Desktop System Release 2 ユーザーズガイド』
- 『Java System Update Service ユーザーズガイド』

上記マニュアルは、付随のソフトウェアメディア、および <http://docs.sun.com> で参照できます。

参考マニュアル

次に、このマニュアルを読む際に参考になるマニュアルを示します。

- 『Java Desktop System Release 2 Ximian Evolution 1.4 ユーザーズガイド』
- 『StarSuite 7 Office Suite 管理ガイド』
- 『StarSuite 7 Office Suite 基本ガイド』
- 『StarSuite 7 Office Suite インストールの手引き』
- 『StarSuite 7 Office Suite ユーザーズガイド』
- 『System Configuration Manager, Release 1』

上記マニュアルは、付随のソフトウェアメディア、または <http://docs.sun.com> で参照できます。

Sun のオンラインマニュアル

docs.sun.com™ では Sun が提供しているオンラインマニュアルを参照することができます。マニュアルのタイトルや特定の主題などをキーワードとして、検索を行うこともできます。URL は、<http://docs.sun.com> です。

Sun マニュアルの注文方法

Sun Microsystems は、精選した紙版の製品マニュアルを提供しています。マニュアルの一覧と注文方法については、<http://docs.sun.com> の「Buy printed documentation」を参照してください。

表記上の規則

このマニュアルでは、次のような字体や記号を特別な意味を持つものとして使用します。

表 P-1 表記上の規則

字体または記号	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例を示します。	<code>.login</code> ファイルを編集します。 <code>ls -a</code> を使用してすべてのファイルを表示します。 <code>system%</code>
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して示します。	<code>system% su</code> <code>password:</code>
<i>AaBbCc123</i>	変数を示します。実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	ファイルを削除するには、 <code>rm filename</code> と入力します。
『 』	参照する書名を示します。	『コードマネージャ・ユーザーズガイド』を参照してください。

表 P-1 表記上の規則 (続き)

字体または記号	意味	例
「」	参照する章、節、ボタンやメニュー名、強調する単語を示します。	第 5 章「衝突の回避」を参照してください。 この操作ができるのは、「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。	<code>sun% grep '^#define \ XV_VERSION_STRING'</code>

コード例は次のように表示されます。

- C シェル

```
machine_name% command y|n [filename]
```

- C シェルのスーパーユーザー

```
machine_name# command y|n [filename]
```

- Bourne シェルおよび Korn シェル

```
$ command y|n [filename]
```

- Bourne シェルおよび Korn シェルのスーパーユーザー

```
# command y|n [filename]
```

[] は省略可能な項目を示します。上記の例は、*filename* は省略してもよいことを示しています。

| は区切り文字 (セパレータ) です。この文字で分割されている引数のうち 1 つだけを指定します。

キーボードのキー名は英文で、頭文字を大文字で示します (例: Shift キーを押します)。ただし、キーボードによっては Enter キーが Return キーの動作をします。

ダッシュ (-) は 2 つのキーを同時に押すことを示します。たとえば、Ctrl-D は Control キーを押したまま D キーを押すことを意味します。

一般規則

- このマニュアルでは、「x86」という用語は、Intel 32 ビット系列のマイクロプロセッサチップ、および AMD が提供する互換マイクロプロセッサチップを意味します。

マウスの使用上の規則

次の表に、Java Desktop System のマニュアルにおけるマウス使用に関する規則を示します。

作業	定義
クリック	マウスを動かさずに、左マウスボタンを押して放す
クリック&ホールド	左マウスボタンを押したままにする
左クリック	クリックと同じ。左クリックは、右クリックと混乱する恐れがある場合に、操作を明確にするために使用する
中央クリック	マウスを動かさずに、中央マウスボタンを押して放す
右クリック	マウスを動かさずに、右マウスボタンを押して放す
ダブルクリック	マウスを動かさずに、すばやく2回押して放す
ドラッグ	マウスボタンをクリック&ホールドして、オブジェクトを移動する。たとえば、ウィンドウまたはアイコンをドラッグできる。デスクトップ上では、左マウスボタンおよび中央マウスボタンを使用してドラッグを実行できる
ドラッグ&ドロップ	マウスボタンをクリック&ホールドして、オブジェクトを移動する。たとえば、ウィンドウまたはアイコンをドラッグ&ドロップできる。オブジェクトを配置する場所でマウスボタンを放す
グラブ	移動する項目をポイントし、マウスボタンをクリック&ホールドする。たとえば、ウィンドウのタイトルバーをグラブし、そのウィンドウを別の場所にドラッグできる

Linux システム

このパートは次の章から構成されています。

- 第1章

この章では、Linux 版 Java Desktop System Release 2 をインストールする前に行う作業を説明します。

- 第2章

この章では、Linux 版 Sun Java Desktop System Release 2 をインストールする手順について説明します。

第 1 章

Linux 版 Java Desktop System をインストールする前に

この章では、Linux 版 Java Desktop System Release 2 をインストールする前に実行する作業について説明します。

システム要件

完全なインストールを行うには、以下のものがが必要です。

- PC (最小構成)

表 1-1 Linux 版 Java Desktop System Release 2 のシステム要件

	推奨	最小
プロセッサ	600 MHz 以上の Pentium III と互換のプロセッサ	266 MHz 以上の Pentium II と互換のプロセッサ
ハードディスク	6G バイト	4G バイト
RAM	256M バイト	128M バイト
ディスプレイ解像度	1024 x 768	800 x 600

PC はインストール CD から直接起動できる必要があります。CD からの起動プロセスは、システムによって異なります。問題が発生した場合は、ご使用の PC のマニュアルを参照してください。

インストールには、PC に関する次の情報が必要です。

- ユーザー名
- ネットワーク構成情報
- ディスクパーティション情報

■ ISP 構成情報

インストールには少なくとも 45 分かかります。インストール手順中にシステムがハングしたように見えた場合でも、インストールプロセスを中断してはなりません。

デュアルブート

Java Desktop System のインストール時に PC 上にデュアルブートを設定することができます。

出荷時のほとんどの Windows インストールはハードディスク上の容量をすべて占有しているため、Linux 用の空き容量は残されていません。そのため、Java Desktop System インストール構成プログラム (Configurator) は Linux オペレーティングシステムをインストールするためのパーティションを作成します。

各オペレーティングシステムは独自のファイルシステムを持っており、別のオペレーティングシステムがそのファイルシステムを読み取れないことがよくあります。Configurator は Windows で使用される FAT32 ファイルシステムを読むことができます。

Linux はそれ自身のパーティションを必要とし、また Windows はパーティションのサイズを変更できないため、Configurator はハードディスクを調べて適切なパーティション設定を提案します。

注 - インストールされている Windows が NTFS ファイルシステムをサポートする場合、独自のパーティションを作成することができます。この場合、パーティションのサイズを変更できないため、Configurator は既存のパーティションを置き換えるように提案します。ただし、パーティションのサイズを変更する他社製のアプリケーションを使用すると、現在の Windows パーティションをそのまま残すことができます。

デュアルブートシステムを作成する場合は、次の点を考慮してください。

- 保持したいファイルは、すべて CD 上等にバックアップする。
- インストールされている Windows が FAT 32 ファイルシステムを採用しているかどうかを確認する。

第 2 章

Linux 版 Java Desktop System のインストール

この章では、Linux 版 Java Desktop System Release 2 のインストール手順について説明します。

CD からの Java Desktop System のインストール

この節では、Java Desktop System インストールパッケージに含まれる CD を使って、Java Desktop System をインストールする方法を説明します。

次の手順を実行します。

1. CD 1 を CD ドライブに挿入します。
システムが起動し、次のオプションが表示されます。
 - **Boot from Hard disk** (ハードディスクから起動)
 - **Installation** (インストール)
 - **Installation — ACPI Disabled** (インストール — ACPI 無効)
 - **Installation — Safe Settings** (インストール — 安全設定)
 - **Manual Installation** (手動インストール)
 - **Rescue System** (復旧システム)
 - **Memory Test** (メモリーテスト)
2. Java Desktop System の新しいインストールを実行するには、矢印キーを使用してインストールオプションを強調表示し、Enter キーを押します。
3. Configurator は「**License Agreement**」ダイアログを表示します。「Accept (同意する)」をクリックして、インストールを続けます。「Accept (同意する)」をクリックしないと、インストールを続けることはできません。
4. 「言語選択」ダイアログから言語を選択し、「了解」をクリックします。

5. Configurator はシステムを解析します。Linux がシステムにインストールされていない場合、Configurator はハードウェアのインストール設定を表示します (手順 8 の例を参照)。

しかし、Linux がシステムにインストールされている場合、Configurator は次のオプションを表示します。

- 「新規にインストールする」

このオプションは、Linux がシステムにインストールされていない場合、あるいは、現在インストールされている Linux のバージョンを変更する場合に選択します。

- 「既存のシステムの更新」

このオプションは、現在インストールされている Linux のバージョンを更新する場合に選択します。このオプションは、既存のシステム構成の設定を可能な限り保持します。

- 「インストールしたシステムの起動」

このオプションは、現在インストールされている Linux のバージョンが再起動できない場合に選択します。このオプションを使用して、手作業で再起動の問題を解決する事ができます。

- 「インストールを中止する」

インストールを中止するには、このオプションを選択します。

6. 「新規にインストールする」を選択し、「了解」をクリックします。

7. Configurator は、次のソフトウェアオプションを表示します。

「デフォルトシステムに **StarSuite** をインストール - 日本、中国、韓国および台湾専用」

「デフォルトシステムで **StarOffice** をインストール - その他の国用」

適切なオプションを選択して、「了解」をクリックします。

8. 次に、システムのインストール設定が表示されます。

次に例を示します。

- モード — 新しくインストールする

- キーボードレイアウト — 日本語

- マウス — PS/2 マウス (Aux-port)

- パーティション — パーティションをフォーマットする : /dev/hda6 9.3 GB、(/, reiser) および パーティションをフォーマットする : /dev/hda5 196 MB、(swap)

デフォルト設定を変更するために「パーティション」をクリックすると、Configurator はハードディスクを検査し、次のオプションを表示します。

- 「提案をそのまま受け入れる」

- 「提案を変更して基本的なパーティションの設定をする」

- 「カスタム・パーティション設定をする」

「提案をそのまま受け入れる」を選択し、「次へ」をクリックします。

注 - デュアルブートシステムを作成する場合、パーティションの設定は重要なインストール手順になります。詳細は、23 ページの「パーティション分割のガイドライン」を参照してください。

- ソフトウェア
 - 「デフォルトシステムに **StarSuite** をインストール - 日本、中国、韓国および台湾専用」
 - 「GNOME システム」
 - 「**StarSuite**」
 - 「ヘルプおよびサポートに関するドキュメント」
 - 「グラフィック基本システム」

「ソフトウェア」をクリックすると、Configurator は次のソフトウェアオプションを表示します。

「デフォルトシステムに **StarSuite** をインストール - 日本、中国、韓国および台湾専用」

「デフォルトシステムで **StarOffice** をインストール - その他の国用」

適切なオプションを選択して、「了解」をクリックします。
- ブートローダー — 1. IDE 9.54 GB, dev/hda から起動する。

「ブートローダー」をクリックすると、Configurator は次の起動オプションを表示します。

 - 「GRUB を /dev/hda のマスターブートレコードにインストール」
 - 「起動用フロッピーディスクの作成」
 - 「GRUB を使用しません (他のブートマネージャーが必要です)」
 - GRUB を他のパーティションにインストールする : (P)/dev/hda

適切なオプションを選択して、「了解」をクリックします。

あるいは、Configurator が示す起動オプションをそのまま使用します。
- 時間帯 — アジア / 東京
- 言語 — 日本語

注 - この段階では、次のようにインストール作業を進めてください。

- 「同意する」をクリックして、インストールを続けます。
 - インストールを続行する前にインストール設定を変更するには、「変更」をクリックします。
 - インストールを中止するには、「インストールを中止する」をクリックします。
-

9. 「同意する」をクリックして、インストールを続けます。
10. インストールと今までの選択すべてを実行するには、「はい、インストールします」をクリックします。

Configurator がハードディスクを準備していることを示すメッセージが表示されます。インストールが始まると、次のような区画を持つ画面が表示されます。

- 現在のパッケージ
インストールパッケージの名前、説明、サイズと共に、インストール済み部分のパーセントを示すステータスバーを表示します。
- インストール
CDからのダウンロードが終了した割合 (%) とダウンロード完了までの予想時間を表示します。
- インストールログ (抜粋)
現在システムにインストール中のパッケージすべてに関する実行状況を表示します。CD 1 からパッケージがダウンロードされた後、Configurator は、基本インストールが終了し、システムが再起動することを示すメッセージを表示します。
システムが再起動した後、CD 2 を挿入するよう求めるダイアログが表示されます。

11. CD 2 を挿入し、「了解」をクリックします。
CD 2 のパッケージをインストールするとき、CD 3 を挿入するよう求めるダイアログが表示されます。
12. CD 3 を挿入し、「了解」をクリックします。
CD 3 からすべてのパッケージが正常にインストールされると、Configurator は、システム管理者 root 用のパスワードの入力を求めるプロンプトを表示します。

注 - 必要なときに参照できるように、パスワードを控えていてください。root としてログインする必要があるのは、システム管理を行うときだけです。

13. root のパスワードを入力します。
14. 確認のためパスワードを再度入力して、「次へ」をクリックします。

次に、新規ユーザーの追加を求めるプロンプトが表示されます。このオプションはネットワーク環境では任意入力です。

15. 追加するユーザーの名前、名字、ログイン名、およびパスワードを入力して、「次へ」をクリックします。入力した内容で、ユーザーアカウントが新たに作成されず。

Configurator は次のようにデスクトップ設定の初期化を開始します。

- 「テキストモードのみ」 — グラフィカルデスクトップなし
- 「グラフィックデスクトップ環境」

16. 「グラフィカルデスクトップ環境」を選択して、「了解」をクリックします。

ネットワークに接続されていないスタンドアロンインストールの場合、Configurator はローカルのプリンタを検出しようとしています。

17. ローカルプリンタがシステムに接続されている場合、「はい」をクリックします。接続されていない場合は、「検出をスキップする」をクリックします。

Configurator はシステム構成を書き込み、次のハードウェアデバイスのインストール設定を表示します。

- 「ネットワーク・インターフェイス」
- 「プリンター」
- 「モデム」
- 「ISDN アダプター」
- 「サウンド」

18. インストール設定を変更するには、「変更」をクリックします。設定をそのまま使用する場合は、「次へ」をクリックします。

設定が正常に保存されたというメッセージが表示され、システムが自動的に再起動されます。

19. CD 3 を取り出します。

20. ログイン画面で、新規ユーザーに設定したユーザー名とパスワードでログインを行います。

これで、Java Desktop System を使用できます。

以下のデスクトップオブジェクトが表示されます。

- このコンピュータ
- ドキュメント
- ネットワークプレイス

このオブジェクトは、x86 版 Solaris オペレーティングシステム用 Java Desktop System Release 2 では使用できません。

- ごみ箱
- Java™ Desktop System について
- StarSuite
- ボトムエッジパネル

Linux 版 Java Desktop System の使用を始めるにあたってヘルプが必要な場合は、『Java Desktop System Release 2 ユーザーズガイド』を参照してください。

CD から既存のシステムをアップデートする

Linux がシステムにインストールされていることを検出した場合、Configurator は次のオプションを表示します。

- 「**New installation** (新規にインストールする)」
- 「**Update an existing system** (既存のシステムの更新)」
- 「**Boot installed system** (インストールしたシステムの起動)」
- 「**Abort Installation** (インストールを中止する)」

インストールされている Linux のバージョンを更新する場合、次の手順を実行します。

1. 「**Update an existing system** (既存のシステムを更新)」を選択します。
このオプションは、既存のシステム構成の設定を可能な限り保持します。
2. 既存のシステムのバックアップを作成する場合、「バックアップを作成します」を選択します。
3. 「次へ」をクリックします。
4. 必要な更新の種類を選択するように求めるプロンプトが表示されます。
5. 既存のシステムを更新する手順については、15 ページの「CD からの Java Desktop System のインストール」のオンライン指示を参照してください。

ネットワークからのインストール

Linux 版 Java Desktop System のネットワークインストールを実行できます。およそ 2.5 GB の空き領域がある NFS 共有ディレクトリにアクセスできるか確認してください。

ISO イメージからのネットワークインストールリポジトリの設定

以下の手順例では、Linux 版 Java Desktop System の ISO イメージからネットワークインストールリポジトリを設定する方法について説明します。

1. root でログインして、NFS を配置するディレクトリを作成します。たとえば、`mkdir /export/jdsimage` を実行します。
2. `/etc/exports` に行を挿入して、NFS 上で `/export/jdsimage` ディレクトリを共有します。たとえば、`/export/jdsimage (ro)` と入力します。
3. `/etc/init.d/nfs restart` と入力して、NFS サーバーを再起動します。
4. ファイルのコピー中に一時的に ISO イメージをマウントするディレクトリを作成します。たとえば、`mkdir /mnt/iso` を実行します。
5. ISO イメージごとに、次のコマンドを実行します。
 - `mount -o loop isofile.iso /mnt/iso`
 - 次のように、すべてのファイルをコピーします。

```
cd /mnt/iso
tar cf - . | cat | (cd /export/jdsimage && tar xbf 1 - )
```
 - 次のように、ISO イメージのマウントを解除します。

```
cd /
umount /mnt/iso
```

すべての ISO イメージに対して、手順 5 を繰り返します。

ISO イメージからのネットワークインストール

ネットワークから Java Desktop System をインストールする前に、次の準備が必要です。

- マシンの IP アドレス
- ネームサーバーの IP アドレス
- NFS サーバーの IP アドレス
- ネットワークサブネットマスク
- インストールされているネットワークカードの種類
- ブートディスク 3 枚

ブートディスク

ネットワークインストールによるインストールを始める前に、3 枚のブートディスクが必要です。ブートディスクは、次の場所から入手できます。

- Java Desktop System インストールパッケージに含まれる CD1 と書かれたディスク
- `boot` フォルダ内のネットワークインストールイメージ

ブートディスクには、次のように名前が付いています。

- `bootdisk`
- `modules1`

- `modules3`

必要に応じて、次のコマンドを使ってその他のディスクを作成します。

```
dd if=/export/suseimage/boot/bootdisk of=/dev/fd0
```

注 - SCSI コントローラや USB ドライバなどのハードウェアに応じて、追加ディスクが必要になる場合があります。

ネットワークインストールの手順

Linux システム上の ISO イメージからネットワークインストールを実行する方法は次のとおりです。

1. `bootdisk` をドライブに挿入し、マシンを再起動します。
システムが起動し、次のオプションが表示されます。

- **Boot from Hard disk** (ハードディスクから起動)
- **Installation** (インストール)
- **Installation — ACPI Disabled** (インストール — ACPI 無効)
- **Installation — Safe Settings** (インストール — 安全設定)
- **Manual Installation** (手動インストール)
- **Rescue System** (復旧システム)
- **Memory Test** (メモリーテスト)

メニューから「**Installation** (インストール)」を選択すると、`modules1` の挿入を求めるプロンプトが表示されます。

2. `bootdisk` を取り出し、`modules1` を挿入して、Return キーを押します。
次のプロンプトが表示されます。"Please make sure that modules1 is in your drive!"
3. 「Back」 → 「English」 → 「Kernel modules (hardware drivers)」 → 「Load network card modules」を選択します。
`modules3` の挿入を求めるプロンプトが表示されます。
4. `modules1` を取り出し、`modules3` を挿入して、Return キーを押します。
5. ネットワークカードを選択します。
6. パラメータの入力を求めるプロンプトが表示された場合、`none` と入力します。
数秒後、次のプロンプトが表示されます。Module <name> loaded successfully
7. 「Back」 → 「Start Installation/system」 → 「Start Installation/update」 → 「Network」 → 「NFS」を選択します。
8. DHCP パラメータの入力を求めるプロンプトが表示された場合、`none` と入力します。

9. マシンの IP アドレスを入力します。
10. サブネットマスクを入力します (例、255.255.255.0)。
11. サブネットのゲートウェイを入力します。
12. ネームサーバーの IP アドレスを入力します。
13. NFS サーバーの IP アドレスを入力します。NFS サーバーは、ネットワークインストールイメージを作成したマシンです。
14. 前に NFS サーバーに作成したサブフォルダ `/path/to/nfs/install/from` を入力します (20 ページの「ISO イメージからのネットワークインストールリポジトリの設定」を参照)。
15. 以降のオンラインインストールの指示に従って、Java Desktop System ネットワークインストールの手順を完了します。

パーティション分割のガイドライン

ディスクのパーティション分割に関する推奨ガイドラインについては、次の表を参照してください。

表 2-1 パーティション分割のガイドライン

パーティション	サイズ	タイプ	記入欄
/	5G バイト。最小 3G バイト	プライマリ	Java Desktop System オペレーティングシステム全体が、1 つのパーティションにインストールされます。この方法では、ディスクをパーティションで再分割しなくても、Java Desktop System の更新リリースをインストールできる十分なスペースが確保されます。
スワップ領域	RAM のサイズの倍。最小 128M バイト	スワップ領域	必要に応じて、スワップパーティションのサイズを増減できます。

パーティションのサイズ変更

パーティションのサイズを変更するとき、Configurator は次のオプションを表示します。

- 「提案をそのまま受け入れる」

- 「提案を変更して基本的なパーティションの設定をする」
- 「カスタム・パーティション設定をする」

パーティションのサイズを変更するには、次の手順を実行します。

1. 「インストールの設定」ダイアログから、「パーティション」を選択し、「提案を変更して基本的なパーティションの設定をする」オプションを選択し、それから「次へ」をクリックします。
2. サイズを変更したいパーティションを強調表示して、「サイズを変更する」をクリックします。
3. スライダを使って、Windows パーティションと Linux パーティションに割り当てる容量を設定し、「確認」をクリックします。

注 - Linux 用の最小の容量は 3024M バイトです。

4. 「次へ」をクリックして、パーティションテーブルを保存し、「インストールの設定」画面に戻ります。

カスタムパーティションテーブルの作成

Configurator が推奨したパーティションが Java Desktop System インストールに合わない場合、カスタムパーティションテーブルを作成する必要があります。

カスタムパーティションテーブルを作成するには、次の手順を実行します。

1. 保存する必要があるファイルは、すべてバックアップしてください。この手順を実行すると、既存の Windows パーティションが上書きされます。
2. 「インストールの設定」ダイアログから「パーティション」を選択し、「カスタム・パーティション設定をする」オプションを選択し、「次へ」をクリックします。
3. 「カスタム・パーティション・プロ用」オプションを選択し、次に「次へ」をクリックして「上級者向けのパーティション設定」ダイアログを表示します。
4. アプリケーションをインストールするディスクを指すデバイス、たとえば /dev/hda を選択し、「削除」をクリックしてそのディスク上のすべてのパーティションを削除します。
5. 「作成」をクリックして、新しいパーティションを作成し、「プライマリ」オプションを選択します。
6. ポップアップウィンドウで、「開始シリンダ」を 0 に、「最後のシリンダ」を + 5G バイトに、「マウントポイント」を / に設定します。
7. 「作成」をクリックして、新しいパーティションを作成し、「拡張」オプションを選択します。

ポップアップウィンドウ内の値は、すべて正しい設定でなければなりません。たとえば、「開始シリンダ」の値は「hda1」の「終了シリンダ」の値より1多くなければなりません。「終了シリンダ」は /dev/hda の「終了シリンダ」と同じ値にすることができます。

ディスクの残った部分を含むように拡張パーティションを作成すると、他のすべてのパーティションは、その拡張パーティションの中に作成されます。

8. 「作成」をクリックして、新しいパーティションを作成します。
9. 「フォーマットする」オプションの下のメニューから「スワップ」を選択します。
10. 「最後」フィールドに「+」構文を使用して、スワップパーティションのサイズを指定します。たとえば、RAM システムが 256M バイトで、スワップを 512M バイトに設定する場合、「+ 512」のように指定します。
11. 「作成」をクリックして、新しいパーティションを作成します。ディスクの残り部分を含む新しいパーティションが構成されます。「マウントポイント」を /usr に設定します。
12. 「次へ」をクリックして、パーティションテーブルを保存し、「インストールの設定」画面に戻ります。

Solaris システム

このパートは次の章から構成されています。

- 第3章

この章では、x86 プラットフォーム用 Solaris 9 オペレーティングシステム 9/04 用の Java Desktop System Release 2 をインストールする方法について説明します。

第 3 章

Solaris システムでの Java Desktop System のインストール

この章では、x86 プラットフォーム用 Solaris 9 オペレーティングシステム 9/04 用の Java Desktop System Release 2 をインストールする手順について説明します。

システム要件

表 3-1 に、Solaris オペレーティングシステムに Java Desktop System Release 2 をインストールするためのシステム要件を示します。

表 3-1 Solaris オペレーティングシステムでの Java Desktop System Release 2 のシステム要件

システムのパラメータ	要件
オペレーティングシステム	x86 プラットフォーム用 Solaris 9 オペレーティングシステム 9/04
ハードウェア	x86 プラットフォーム用 Solaris 9 オペレーティングシステム 9/04 用 Java Desktop System Release 2 は、次のハードウェアシステムで動作します。 <ul style="list-style-type: none">■ Sun Java Workstation W1100z■ Sun Java Workstation W2100z
ディスク空間	<ul style="list-style-type: none">■ DVD から Java Desktop System をインストールする場合、最大 2.0 GB の空き領域が必要です。■ ネットワークから Java Desktop System インストーラをダウンロードする場合、インストーラの tar ファイルをダウンロードし抽出するために、さらに 2.8 GB の空き領域が必要になります。

表 3-1 Solaris オペレーティングシステムでの Java Desktop System Release 2 のシステム要件 (続き)

システムのパラメータ	要件
メモリー	ユーザーセッション当たり 128M バイト

DVD からの Java Desktop System のインストール

この節では、製品 DVD から Java Desktop System をインストールする方法について説明します。

注 - 最初に、Sun Java Workstation W1100z または Sun Java Workstation W2100z に x86 プラットフォーム用 Solaris 9 オペレーティングシステム 9/04 をインストールする必要があります。

次の手順を実行します。

1. 次のように、root でログインします。
「ログイン」画面から、「オプション」→「セッション」→「共通デスクトップ環境 (CDE)」を選択します。
2. ログインしたら、DVD トレーを開き、製品 DVD を挿入し、DVD トレーを閉じます。
数秒後、ファイルマネージャが表示されます。

注 - DVD ファイルマネージャウィンドウが開かない場合は、次の手順を実行します。

- CDE フロントパネルから、「ファイル」→「リムーバブルメディア・マネージャ」を選択します。
- DVD アイコンをダブルクリックして、ファイルマネージャを開きます。

ファイルマネージャが開かない場合は、ボリューム管理を停止して再起動する必要があります。次のコマンドを入力します。

```
/etc/init.d/volmgt stop
```

```
/etc/init.d/volmgt start
```

3. JavaDesktop フォルダをダブルクリックします。

4. JavaDesktop フォルダ内の install-jds アイコンをダブルクリックします。
5. 画面上の指示に従ってライセンスを確認します。
6. 現在の UI 言語で、プロンプトに Accept と入力します。Accept と入力しないとインストールを継続できません。
インストーラはシステムを確認してから、Java Desktop System Release 2 ソフトウェアのインストールを開始します。
7. インストールが完了したら、「ファイル」→「取り出し」を選択して、インストーラ端末ウィンドウを閉じます。
8. ワークステーションをリブートします。
9. 「ログイン」画面から、「オプション」→「セッション」→「Java Desktop System, Release 2」を選択して Java Desktop System にログインします。

ネットワークからの Java Desktop System インストーラのダウンロード

ネットワークから Java Desktop System 用のインストーラをダウンロードするには、次の手順を実行します。

1. ダウンロードとインストールに使用できる十分なディスク容量があるか確認します。
2. インストーラをどのディレクトリにダウンロードするか決定します。デスクトップは root ユーザーとしてインストールする必要があるため、ダウンロードディレクトリは root ユーザーがアクセス可能でなければなりません。
3. 使用しているブラウザで次の Web ページを開きます。
<http://www.sun.com/software/javadesktopsystem/index.html>
ダウンロードサイトでは、次の方法を説明しています。
 - 各国用の tarball の適切なセットをダウンロードする方法
 - tarball を圧縮された tarball に戻す方法
 - root ユーザーとして、コマンドラインからインストールスクリプトを実行する方法
4. このページの「**Download**」セクションで、必要なインストーラの「**Download Now**」リンクをクリックします。
5. ダウンロードユーザーとして登録済みの場合はそのままログインし、新規ユーザーの場合は登録ページに進んでください。
6. 「**Terms of Use**」ページを読んで「Accept」を選択し、続いて「Continue」をクリックします。
7. 「**Download**」ページで、ダウンロードしたい tarball の説明文をクリックします。

8. Sun Download Center から root ユーザーがアクセスできるディレクトリへ、インストーラの tar ファイルをダウンロードします。

インストーラを圧縮解除し抽出するには

次の手順を実行して、インストーラを圧縮解除し抽出します。

1. root として CDE にログインし、端末ウィンドウを開きます。
2. cd コマンドを使用し、インストーラの tar ファイルをダウンロードしたディレクトリへ移動します。
3. 次のコマンドを実行して、インストーラを圧縮解除し抽出します。

```
gunzip -c jds-2_0-fcs-solaris9-x86.tar.gz | tar xvpf -
```
4. インストーラの抽出が完全に終了した時点で、ダウンロードしたファイルを削除してディスク領域を解放できます。次のコマンドを実行して、インストーラを削除します。

```
rm jds-2_0-fcs-solaris9-x86.tar.gz
```

Java Desktop System をインストールするには

インストールスクリプトは、次の製品を旧バージョンから Java Desktop System に含まれる新しいバージョンに置き換えます。

- GNOME デスクトップ
- Netscape
- Mozilla
- Java Media Framework
- StarSuite

また、インストールスクリプトは、インストールされている Java 1.4.2 が Java Desktop System に含まれるバージョンよりも古い場合、これを置き換えます。

注 – Java Desktop System のインストールによって、システムが変更されます。ただちにシステムをバックアップしてください。システムを元の状態に戻す場合、新しく Solaris をインストールする必要があります。アップグレードインストールを使用しても、システムを元の状態に戻すことはできません。

Java Desktop System をインストールするには、次の手順に従ってください。

1. root として CDE にログインし、端末ウィンドウを開きます。
2. cd コマンドを使用して、jds-2_0-fcs-solaris9-x86 ディレクトリに変更します。
3. 次のコマンドを実行してインストールを開始します。./install-jds
4. 画面に表示される指示に従います。プロンプトに従って、必要なすべてのインストールを決定します。
5. インストールスクリプトからライセンス契約が表示されたら、現在の UI 言語で、プロンプトに Accept と入力します。Accept と入力しないとインストールを継続できません。
6. インストール完了時に、インストールスクリプトによって再起動を指示された場合は、システムを再起動します。

インストール後

このパートは次の章から構成されています。

- 第4章

この章では、Java Desktop System Release 2 をインストールした後に実行するアクティビティについて説明します。

第 4 章

Java Desktop System をインストール した後

この章では、Java Desktop System Release 2 をインストールした後に実行する作業について説明します。

システム更新の確認とインストール

Java System Update Service (Java SUS) により次の操作を実行できます。

- Java Desktop System 用のソフトウェア更新をインストールする
- 使用できる更新のリストからインストールする更新を選択する
- 利用できる更新を確認するサーバーを指定する

Java SUS アプリケーションを起動するには、「起動」→「アプリケーション」→「ユーティリティ」→「オンライン更新」を選択します。

詳細については、『*Java System Update Service User's Guide*』を参照してください。このマニュアルは、付属のソフトウェアメディア、および <http://docs.sun.com> で参照できます。

Xorg Xserver の設定

Xorg Xserver の設定を開始する前に、次の点を確認してください。

- キーボードの種類 (Sun Type 6 UK など)
- マウスデバイス (/dev/usb/hid1 など)
- グラフィックスアダプタ (グラフィックスアダプタのモデルやビデオ RAM の量など)

- モニターの仕様

Solaris システムでの Xorg Xserver の設定

x86 プラットフォーム用 Solaris 9 オペレーティングシステム 9/04 用の Xorg Xserver を設定するには、次の手順を実行します。

1. コマンドラインのログインセッションに、root としてログインします。
2. 次のコマンドを実行して、Xorg Xserver 設定を開始します。
`/usr/X11R6/bin/xorgconfigure`
3. 画面に表示される指示に従います。すべてのプロンプトに従って、必要なすべての設定を決定します。

次のようにして、デフォルト値に Xserver を設定し直すことができます。

1. コマンドラインのログインセッションに、root としてログインします。
2. 次のコマンドを実行します。`/usr/X11R6/bin/X -xconfigure`
3. 次のように、生成された `/xorg.conf.new` ファイルを `/etc/X11/xorg.conf` にコピーします。`cp /xorg.conf.new /etc/X11/xorg.conf`

Linux システムでの Xorg Xserver の設定

Linux システムで Xorg Xserver を設定するには、YaST2 設定ツールを使用します。